

第2回(仮称)あおもりICT利活用推進プラン検討委員会議事録(サマリー版)

日時 平成30年8月31日(金)

13:30~15:30

場所 Gravity Co-WORK

(グラビティ・コ・ワーク)

1 開会

- ・ 全委員出席(11名。内1名はテレビ会議で参加)。
- ・ タブレットを使用したペーパーレス会議として開催。

2 議事

- (1) (仮称)あおもりICT利活用推進プラン 目次(検討案)について
- (2) (仮称)あおもりICT利活用推進プラン 第1章(検討案)について
- (3) (仮称)あおもりICT利活用推進プラン 第2章(検討案)について
- (4) (仮称)あおもりICT利活用推進プラン 第3章(検討案)について

- ・ 議事の冒頭、事務局より「資料1」から「資料5」、及び「参考資料」に基づき説明した。
- ・ 各委員からの主な意見は以下のとおり。
 - ・ 外国人とのコミュニケーションの場面で多言語翻訳などをうまく活用することが必要ではないか。
 - ・ 夜間の急患受付の際に遠隔による画像での指示等ICTを使って病院間の連携ができないか。そういった生活に身近な事例を示すこともよいのではないか。
 - ・ 本プランを作成する中で、県庁内の各部局や市町村、県内の各団体の間でプランの位置付けをきちんと意識すれば、もっと議論が活発化するのではないか。
 - ・ 本プランの推進期間は5年間ということだが、技術が急速に進化する中であって、策定後に見直しはするのか。
 - ・ 本プランの推進期間は次期基本計画の時間軸と合っているのか。プランに基本計画のような目指す姿が書いていないが、人口減少の話とか具体的なものを想定すべきではないか。
 - ・ あまりにも内容が多面的過ぎるのではないか。取組を絞り込んだり、重点化を図るべきではないか。
 - ・ 施策の視点が子どもを中心に向いているが、人口構成では高齢者の方が多い。高齢者向けの施策もあっていいのではないか。
 - ・ 「ICT利活用」というプランのタイトルが面白そうじゃない。興味を持ってもらうための工夫が必要ではないか。
 - ・ 「エドテック」を専門にしているが、スマートフォンを仕事や授業中に使えないとか、ICTを利活用する場面で心理的なハードルがある。行政が音頭を取ることでこのハードルを越えられるかもしれない。
 - ・ マイナンバーが登録されたマイクロチップを体内に埋め込み、電車の乗降、コンビニの支払い、医療機関の受診、印鑑証明の交付等に活用できないか。
 - ・ 北欧では既にマイクロチップを導入している国もある。また、マイナンバーの活用も進んでおり、病院の予約やレンタルビデオ、銀行口座にまで利用されている。便利ではあるが、あまりにも行き過ぎという議論もあった。
 - ・ インターネットの普及で生活が便利になったが、情報がたくさんあり過ぎて正しい情報の

取捨選択が難しくなっている。行政機関がSSLのシールを発行するなど情報の信頼度を高める工夫をしてはどうか。

- ・ 観光サイトを作る際に行政が情報を整理して、情報の重複を防ぐ工夫はできないものか。
- ・ ネット上に氾濫している情報に惑わされないように、子ども達に正しい情報の取り方の教育が必要ではないか。
- ・ 個人情報の取り扱いやICTをうまく使いこなすといったICT利活用の前提となる「県民の情報リテラシー」を高めることが最も重要な施策ではないか。
- ・ 建設業界の高齢化が進んでいる。現場の実情を実際に見て、高齢の方が安全に作業できるようにするにはどのようにICT機器を利活用すべきかを考えてはどうか。
- ・ 県内で実際に「ワーケーション」という取組は行われているのか。首都圏のIT企業の方を青森に呼んで「ワーケーション」のような取組を行う予定がある。リラックスできる環境で、休暇を過ごしつつ働くという取組に興味がある。
- ・ 県内でも「ワーケーション」を許す環境になればどんどん普及するのではないか。受け入れる側が実際に体験することも必要ではないか。
- ・ 入札制度等現行の行政手続きが煩雑すぎるので、ICTを活用してもっと効率化を図って欲しい。
- ・ 官民データは行政だけではなく、民間のデータも活用するよう、官と民のトータルで促進しようという取組を進めるべきである。
- ・ 高齢者のICT利活用にもっと目を向けるべきである。ICT機器も新規購入ではなく、テレビなどの既存のものを活用できないか。
- ・ 学校の授業でのタブレットの活用を進めるべきである。子ども達のやる気や興味が増す効果が期待できる。ペーパーレスにより教員の負担も減るのではないか。
- ・ バスやタクシーで利用が想定されている自動運転技術の実証を本県でできないか。特に地方でニーズが高いと思われる。凍結路などの雪道での実証には本県が適地ではないか。
- ・ プランの策定後にPDCAをうまく回すことが極めて重要である。

3 その他

- ・ 第3回検討委員会を11月上旬頃を開催する方向で各委員の日程を調整することとした。

4 閉会

—以上—